彦根市埋蔵文化財調査報告第20集

福満遺跡第7次調査

―市立城南小学校増築工事に伴う―

平成3年3月

彦根市教育委員会

序

21世紀まであと10年たらずに迫り、コンピューター等ハイテク技術の急進展に伴いニューメディアに代表される情報ネットワークの展開は、21世紀の先取りとも言えるものがあります。情報化社会は、全国的に同質のまちを作りつつあり、地方の特色が薄れつつあるのが現状でありましょう。このことは、子供達の「ふるさと」意識の希薄化に端的に表われています。

文化財は、人々の生活と時間と自然の中で作られてきた歴史のエッセンスとして固有の価値を持つものでありますが、「ふるさと」を見直し新たな意味を見付ける鏡としての可能性を持つものであります。この様な意味で「ふるさと」情報の体系化と発信は、私達の大きな責務でありますが、本書がその一助となれば幸せです。

最後になりましたが、調査にご協力いただきました関係各位に厚くお礼を申し上げます。

平成3年

教育長　和　田　豊　治

例　　言

1．本書は、平成２年度に城南小学校の増築工事に伴ない実施した福満遺跡の発掘調査報告書である。

2．遺跡は、滋賀県彦根市西今町380番地である。

3．調査は、彦根市長の依頼に基づき彦根市教育委員会が実施した。

4．調査体制は次のとおりである。

彦根市教育委員会	社会教育課長	高橋安太
	同　課長補佐	小寺　廣
	同課文化財係長	日夏秀喜
	同課文化財係技師	本田修平

5．現地の調査および整理作業には次の方々が参加した。

調査作業員	大堤須美子	北川正吉	鈴木千代	
	出口加寿夫	西村昭三	原　弥助	
	疋田千鶴子	古川　久	松林愛子	
整理作業員	乾　範子	中嶋容子	西村幸子	以上敬称を略す。

記して感謝したい。

7．調査の出土遺物等資料は、本市教育委員会が保管している。
なお、資料中遺構図等で使用している北は、磁北である。

目　　次

1．はじめに …… 3
2．調査結果 …… 4
3．まとめ …… 6

出土遺物観察表 …… 7
図　版1～14 …… 16

1．はじめに

福満遺跡の所在する西今町周辺は、南彦根駅の開設や道路整備等の進展、また、宅地開発の進行による居住人口の増加が著しい地域である。このため、市立城南小学校の増築が計画されたものである。

城南小学校は、現在までの調査で福満遺跡上に位置していることが明らかであり、これまでに増改築時には調査を実施しており、今回も工事以前に調査を行うことで計画をした。

調査に至る経過は、平成２年５月15日付彦教委社第459号で発掘通知および調査依頼の提出が彦根市長よりあり、市教育委員会では教育長名で発掘通知の進達ならびに発掘調査通知を平成２年５月22日付彦教委社第666号で進達、彦教委社第664号で調査通知を県教育委員会教育長あてに提出した。

現地の調査は、先ず重機で盛り土等を取り除きトレンチ設定を行なったが、これと同時に調査地が小学校の敷地内であるため安全対策として金網を張った柵で現場を囲んだ。その後現地調査を実施したが、調査期間は平成２年６月４日から同月の30日までを要した。遺物整理等の作業は、平成３年３月31日まで実施した。

福満遺跡をその地理的な条件から見れば、犬上川がその死命を制していた。すなわち、遺跡は犬上川後背湿地の微高地上に立地しており、現在までの調査結果から見れば大きくは２回の時間的な断絶があり、福満遺跡が立地する微高地が地形的に安定するのは、沖積地化がある程度進んだ古墳時代以降であった。この断絶の時期は、縄文時代後期後半から晩期前半と弥生時代の２時期である。

次に遺物の出土した縄文時代後期前半と晩期後半の遺跡周辺の自然環境を推定すれば、後期の遺物の中には植物遺体は確認できなかったが、晩期の中に「栃」「栗」「胡桃」等の実が出土しており深い照葉樹林に包まれていたと思われる。また、後期、晩期ともにその遺物の出土状況はシルト層・砂層等が互層になっている中に遺物が入っているとともに、その上に包含層、遺構の土が落ち込んだ状態であった。このことは、河川もしくは低湿地に堆積した２次的な包含層であることをものがたっている。以上の様な過程で形成された沖積地の上に弥生時代後期以降の遺跡がのっていると考えられる。本遺跡周辺の自然環境としては、深い照葉樹林の広がる中に犬上川の河道および後背湿地が形成され、縄文時代弥生時代を通して沖積地化が進行していたことが復元できる。ただし、この沖積地化はこ

の時点で完了したわけではなく、ある程度沖積地化が進み、その微高地に大規模な集落が形成された古墳時代から奈良時代にかけても徐々に進んでいたことが考えられ、犬上川の沖積作用の激しさがうかがえる。

2．調　査　結　果

福満遺跡の今回の発掘調査は、前記した様に市立城南小学校の児童数の増加に伴った増築工事に先立ち実施したもので、建物面積は鉄筋コンクリート造り二階建の床面積357㎡の校舎である。この地点は、以前木造校舎のあった時に便所があった所であるとのことで、攪乱を受けていることが予想された。トレンチは、安全面との関係で現在の校舎と継ぐ廊下部分を除いて設定し、面積は約170㎡である。また、この場所は小学校正面入口の北側であることや北隣りの城南保育園の園児が通るため、はじめに記した様に安全面を配慮して柵を作って外部から入れない様にした。

調査は、重機で包含層の上面まで掘り下げその後人力による手掘りとしたが、校舎であることから盛り土が約90cm、 その下に耕作土層が30cmあり、 平均で120cm程掘り下げることが必要で、その土量はかなりのものであった。また、前述した様に、以前の校舎による攪乱が心配されたが、 松の丸太杭やぐり石の詰まった長径1m前後の楕円の穴がトレンチ北西端で3ケ所あった 以外は攪乱を受けていなかった。 ただし、トレンチ北と南両側の断面では建物基礎が包含層の上面まで入っていた。また、遺構面での基礎の松杭は杭の残存したものは6本であるが、2m×2.8mピッチで16ケ所検出できた。以上のことより、今回のトレンチは以前の木造校舎と丁度重なるものであることが確認できた。

遺構面の確認できた地山は、褐黄色粘質土層が主であるが、トレンチ中央部では褐黄色砂質土層になる。包含層は暗灰褐色粘質土層が30cm程あり、ほぼ2回に分けて掘り下げた。遺構は土師器、須恵器片が主であり、量的にはあまり包含していなかった。時代的には、古墳時代の前半から後半にかけてのものが大半であったが、数片ではあるが灰釉陶器片等が出土しており平安時代までの遺物を含んでいた。また、1点ではあるが縄文時代の遺物と考えられる叩石が出土している。今回の調査地は、以前に発掘調査を実施し縄文時代後期の遺物が多量に出土した県住宅供給公社の宅地造成地の南隣にあたる地点であり、縄文時代の遺物の出土が予想されたが、包含層からのこの時代の遺物の出土は、この1点だけであった。

〈ＳＤ－１〉

溝（ＳＤ－１）は、トレンチ北東壁からほぼ南を向いて直線的に走り、湿地状の落ち込み（ＳＸ－１）にかかる所からゆるやかに湾曲して東南方向を向く。このＳＤ－１は、幅40cmで深さ20cmを計り、ＳＸ－１を切り込んで形成したものであるが、ピットには切られている。溝内は、黒灰色粘質土が入る一層だけであり、遺物は土師器の小片が数点入っているだけで具体的にその時代を表わす資料は出土しなかった。

〈ＳＢ－１〉

トレンチ南西側で検出した主軸 Ｎ－24°－Ｅ の掘立柱建物で、その規模は現状で２間×１間であるが、柱穴の状態から見れば２間×３間の建物跡と考えるのが妥当であろう。また柱間は2.5ｍを計り、柱穴は径40cm前後で円形のものが主である。

その他、ピットを多数確認しており、等間隔で直線を作る所は数ケ所あるが、他のピットが直交して建物跡とするには若干無理があるため、今回の調査地点での建物跡は上記のＳＢ－１だけと考えている。

〈ＳＸ－１〉

ＳＸ－１は、遺構面を精査した時点でトレンチ南端に遺物を包含した茶褐色粘質土の入った落ち込みを確認した。当初、沼もしくは湿地状の遺構と考え、茶褐色粘質土層を掘り下げたが、この層に包含された遺物は他の所に較べると比較的多く、また廃棄された土器がその場で割れた様な出土状況を示すものもあった。出土遺物は、古墳時代前期と考えられる土師器が出土している。この包含層は、40～50cmの厚さがあったが、この層を取り去っても地山の土は確認できず、土層は砂質から砂層に変った。最終的には、水の湧いて来る砂利層まで掘り込んだが、ＳＸ－１内埋土第３層の青灰色シルト層から青灰色砂層に至る層で３点ほどの縄文時代晩期後半の土器片が出土した。また、ＳＸ－１の肩を出すため掘り込んだところ、遺構面である褐黄色粘質土層の下に縄文時代晩期の遺物の包含層である青灰色シルト層および青灰色砂層が入り込むことを確認した。このことから当地の地形を考えれば、低湿地もしくは河床状の所を犬上川の沖積作用によって、沖積地が形成され始めたのが縄文時代晩期のことである。この低湿地の大半が沖積地化したのは、古墳時代前期のことである。この時期に湿地もしくは沼状に残されたのがＳＸ－１にあたる所で、この時点でも古墳時代前期の遺物を包含しながら沖積化が進行したことが考えられる。以上の様なプロセスを経て沖積地として形成され、当遺跡の過去の調査例から見れば縄文時代後期から沖積作用が加速度的に進行したと思われる。このため、沖積地化がある程度進んだ古墳時代前期以前の人々の生活場所は、その時代に微高地化した所を選んで占地していたが、極め

て不安定な地形であったことが考えられる。

3．ま　と　め

福満遺跡の今回の調査は、調査範囲が極めて限られたものであり遺跡全体の性格を把握するまでには至らなかったが、以前の調査で確認した縄文時代後期前半および縄文時代晩期後半の包含層は、２次的な包含層と考えていたが、今回のＳＸ－１の調査でその性格がより明確になった。すなわち、住居等の生活面は当時としては微高地であったろう沖積地化の進んだ所が選ばれていたと考えられるが、沖積地化の進行と共に遺跡ごと削平される様な激しい沖積作用があり、低湿地に２次的な包含層として残された。このため、場所、時間的な連続性はこの時代には認められない。この地が沖積地として地形的に安定化するのは、沖積作用がある程度進んだ古墳時代前期以降であるが、この時代も一部埋め残された地点では沖積地化が進んでいた。以上の様な自然地理的な特徴を福満遺跡は示していることが、今回の調査で明確になった。

溝、ピット等の遺構は、その埋土中に時期を明確に表わす資料は出土しなかったが、溝とＳＸ－１との切り合い関係やＳＸ－１の近くではピットがあまり検出できなかったことを考えあわせれば、ＳＸ－１の堆積が終った古墳時代以降のものであることが推測できる。

今後、福満遺跡の調査が進めば、より豊かな歴史が私達の目の前に明らかになるだろう。

福満遺跡第7次出土遺物観察表

番号	種類・器形	法量 (cm)	形態	調整	胎土・色調・焼成	備考
1	土師器 壷	口径 14.4	○ よく締った頸部より、口縁部は「ラッパ」状に開く。 ○ 口縁部は、端部外面を面取りして断面三角にしておさめる。	○ 頸部・口縁部は、内外面ともに横ナデ調整。	胎土：2㎜前後の砂粒を含む 色調：淡乳褐色 焼成：硬	包含層
2	〃	〃 16.0	○ 口縁部は「ラッパ」状に開く。 ○ 口縁端部は、強く面取りしてやや垂下ぎみの端部を作る。	○ 頸部外面上半部は、ハケ調整の上から横ナデ調整をほどこす。 ○ 口縁部から端部は、横ナデ調整であるが、内面は器表剝脱のため不明。 ○ 口縁端部外面下部に粘土を張り付けて、口縁部を作る。	胎土：2㎜以下の砂粒を含む 色調：淡褐色 焼成：やや硬	〃
3	〃	復元径 22.8	○ 口縁部は外傾して開く。 ○ 口縁端部は、外面を強く面取りして上方をつまみ出しぎみに作り、下方に垂下させておさめる。	○ 内外面ともに器表剝脱のため不明。	胎土：1㎜以下の砂粒を極少量含む 色調：赤褐色 焼成：やや軟	〃
4	〃	口径 11.1	○ 口縁部は「ラッパ」状に開く。 ○ 口縁端部は、強いナデにより上方に引き出すと共に下方に垂下させ、断面菱形に作る。	○ 口縁部および端部は、内外面ともに横ナデ調整。	胎土：1㎜前後の砂粒を適少量含む 色調：明赤褐色 焼成：硬	〃
5	〃	〃 19.0	○ 口縁部は強く外傾して開き、端部を垂下させる。 ○ 口縁端部外面に凹線を四条ほどこし、棒状浮文をかざる。	○ 口縁部外面は、ハケ調整と思われる。 ○ 端部および口縁部内面は、横ナデ調整。	胎土：1㎜以下の砂粒を若干含む 色調：淡褐色 焼成：やや軟	〃
6	土師器	〃 13.6	○ 体部は、最大腹径が上位部に来ると思わ	○ 体部外面はハケ調整。	胎土：1㎜前後の	〃

番号	種類・器形	法　量(cm)	形　　態	調　　整	胎土・色調・焼成	備　考
	甕		れる。 ○　頸部は、やや締り、口縁部はいわゆる受け口口縁をなす。 ○　端部は、強い横ナデで面取りする。	○　頸部・口縁部内外面および体部内面は横ナデ調整。	砂粒を含む 色調：乳白色 焼成：やや軟	包含層
7	土師器 底部	底部径 5.6	○　底部は平底で、体部は強く外傾して立ち上がる。	○　底部は内外面ともに器表剝脱のため不明。 ○　体部は、外面器表剝脱のため不明であるが、内面はハケ調整。	胎土：2㎜前後の砂粒を含む 色調：淡明褐色 焼成：軟	〃
8	〃	〃　6.6	○　底部は凹み底をなし、体部は強く外傾して立ち上がる。	○　底部は外面ナデ調整。 ○　底部内面および体部内外面ともに、ハケ調整後に横ナデ調整。	胎土：精良 色調：淡褐黄色 焼成：硬	〃
9	〃	〃　5.8	〃	○　底部および体部ともに品表剝脱のため不明。	胎土：1㎜前後の砂粒を若干含む 色調：淡褐色 焼成：硬	〃
10	〃	復元径 7.0	○　底部は外面に張り付けて作り、凹み底をなす。 ○　体部は外傾して内彎ぎみに立ち上がる。	○　底部外面はナデ調整。 ○　体部内外面および底部内面はハケ調整後横ナデ調整。	胎土：1㎜前後の砂粒を若干含む 色調：淡白褐色 焼成：硬	〃
11	土師器 脚付底部	底部径 5.5	○　底部は脚が付く。 ○　体部は、強く外傾して立ち上がる。	○　器表剝脱のため不明。	胎土：3㎜以下の砂粒を含む 色調：淡乳褐色 焼成：やや軟	〃
12	土師器 器台脚部		○　脚部は「ラッパ」状に開く。	○　器表剝脱のため不明。	胎土：1㎜前後の砂粒を若干含む 色調：明赤褐色 焼成：やや硬	〃

番号	種類・器形	法量(cm)	形態	調整	胎土・色調・焼成	備考
13	土師器 高坏脚部		○ 脚部は「ラッパ」状に開き、3穴を有すと思われる。	○ 坏底部は「へそ」状に粒土で埋めて作る。 ○ 器表剝脱のため不明。	胎土：1㎜以下の砂粒を極少量含む 色調：淡赤褐色 焼成：やや硬	包含層
14	〃		〃	○ 脚部内面にしぼり痕を残し、外面はナデ調整。 ○ 底部外面はナデ調整。	胎土：精良 色調：淡褐色 焼成：硬	〃
15	〃		○ 脚部は、脚柱部を作り「ラッパ」状に開く。	○ 脚部は内面にしぼり痕を残し、内外面はナデ調整。	胎土：1㎜以下の砂粒を若干含む 色調：乳白色 焼成：軟	〃
16	須恵器 坏蓋	口径 22.9 器高 5.2	○ 天井部は「ドーム」状を成す。 ○ 口縁部は外返しぎみに開く。	○ 天井部外面上半部はヘラ切り不調整。 ○ 天井部内面および体部内外面はロクロナデ調整。	胎土：1㎜以下の砂粒を含む 色調：淡灰色 焼成：硬	〃
17	土師器 壷	口径 10.8	○ 口縁部は、外彎しながら「ラッパ」状に開く。 ○ 端部は、面取りして上方と下方に引き出して垂下口縁ぎみに作る。	○ 口縁部は、内外面横ナデ調整。 ○ 口縁端部および内面は丹彩かと思われる。	胎土：2㎜前後の砂粒を極少量含む 色調：乳赤色 焼成：硬	SX−1内 (赤褐色粘質土層)
18	〃	〃 11.4	○ 口縁部は、外彎しながら「ラッパ」状に開く。 ○ 端部は、面取りして上方に弱くつまみ出し、外面に弱い凹線を入れる。	○ 口縁部は、内外面ともに横ナデ調整。	胎土：1㎜前後の砂粒を含む 色調：淡褐色 焼成：硬	〃
19	〃	〃 14.7	○ 頸部はよく締り、口縁部は外傾して開く。 ○ 端部は、面取りして上方と下方に弱くつ	○ 頸部から口縁部下半部外面はハケ調整と思われる。	胎土：2㎜前後の砂粒を若干含む	〃

番号	種類・器形	法　量(cm)	形　　態	調　　整	胎土・色調・焼成	備　考
			まみ出しておさめる。	○　口縁部上半部外面から端部内面は横ナデ調整で、他は器表剝脱のため不明。	色調：淡赤褐色 焼成：やや軟	
20	土師器 壷	口径　12.7	○　頸部はよく締り、口縁部は外傾して開く。 ○　端部外面下方に粘土を張り付け断面「四辺形」におさめる。	○　頸部および口縁部は、内外面ともに横ナデ調整。	胎土：2㎜前後の砂粒を含む 色調：濃褐色 焼成：やや軟	SX−1内 (茶褐色 粘質土層)
21	〃	〃　14.7	○　頸部はよく締り、口縁部は「ラッパ」状に開く。 ○　端部は丸くおさめるが、下方につまみ出しぎみにする。	○　頸部および口縁部は、内外面ともに横ナデ調整。	胎土：1㎜以下の砂粒を極少量含む 色調：淡褐色 焼成：硬	〃
22	〃	〃　18.8	○　頸部はよく締り、口縁部は強く屈曲しながら外傾して開く。 ○　端部は、面取りし、下方に弱くつまみ出しておさめる。	○　口縁部外面はハケ調整で、内面はハケ調整後横ナデ調整。 ○　端部は横ナデ調整。	胎土：精良 色調：灰褐色 焼成：硬	〃
23	〃	〃　23.0	○　口縁部は、強く外傾して開き、端部を垂下させておさめる。 ○　口縁部上面は4条の凹線を入れ、端部上面を刻む。	○　口縁部は、内外面ともに横ナデ調整。	胎土：2㎜前後の砂粒を極少量含む 色調：明赤褐色 焼成：やや軟	〃
24	土師器 甕	〃　15.4	○　口縁部は、強く外傾しながら開くいわゆる「く」の字口縁。 ○　端部は、面取りして平らにおさめる。	○　口縁部は、内外面ハケ調整。 ○　端部は、横ナデ調整。	胎土：精良 色調：淡赤褐色 焼成：硬	〃
25	〃	〃　20.8	○　口縁部は、屈曲して立ち上がり、端部を面取りするいわゆる「受け口」状口縁。	○　口縁部は、内外面ともに横ナデ調整。	胎土：1㎜以下の砂粒を若干含む 色調：淡白褐色 焼成：やや軟	〃

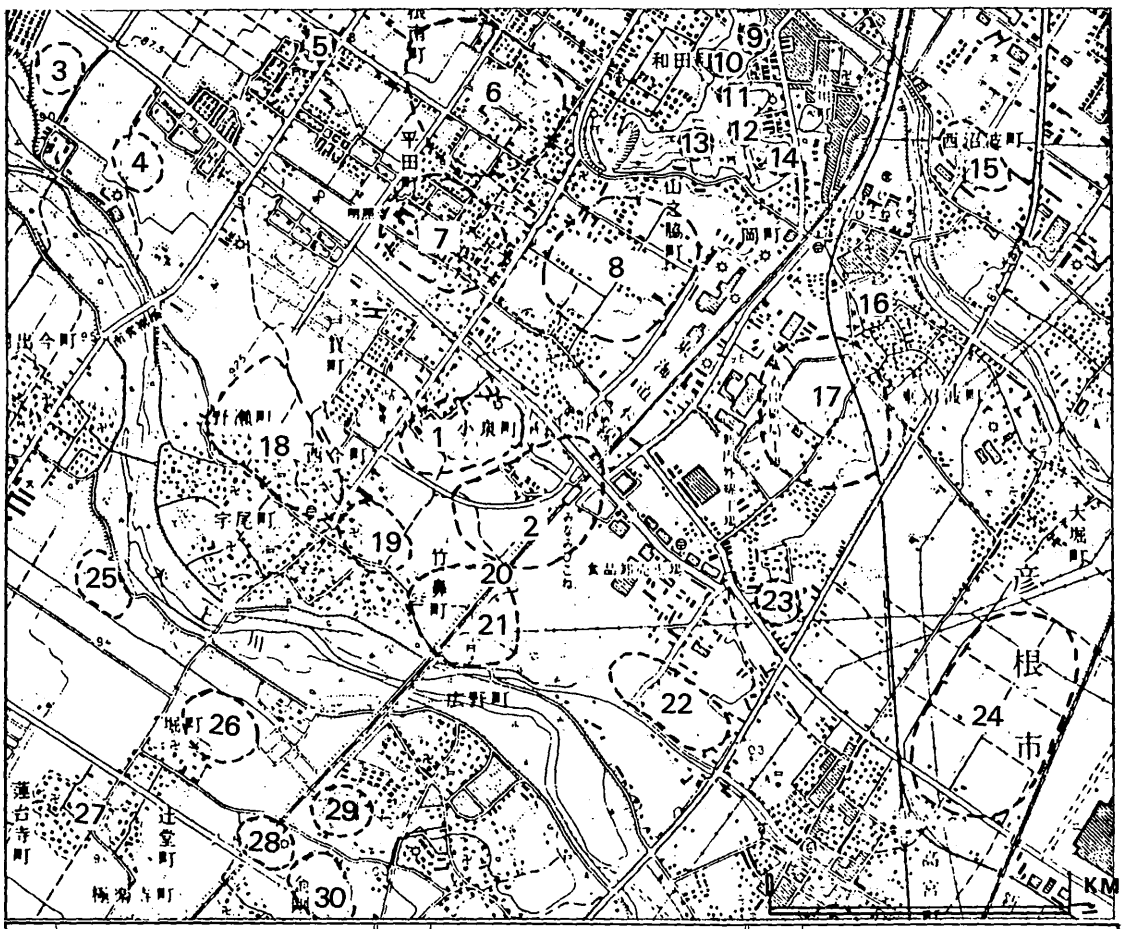
番号	種類・器形	法　量(cm)	形　　態	調　　整	胎土・色調・焼成	備　考
26	土師器 甕	口径　15.5	○　頸部はやや締り、口縁部は屈曲して立ち上がり、端部を丸くおさめるいわゆる「受け口」状口縁。	○　口縁部は、内外面ともに横ナデ調整。	胎土：精良 色調：明赤褐色 焼成：硬	SX−1内 (茶褐色 粘質土層)
27	〃	〃　21.7	○　あまり締らない頸部より、口縁部は屈曲して立ち上がり端部を平らにおさめるいわゆる「受け口」状口縁。	○　〃	胎土：精良 色調：明赤褐色 焼成：軟	〃
28	〃	〃　18.2	○　口縁部は弱く屈曲しながら開き、端部を丸くおさめるいわゆる「受け口」状口縁。	○　〃	胎土：2㎜前後の砂粒を極少量含む 色調：濃褐色 焼成：やや硬	〃
29	〃	〃　19.7	○　あまり締らない頸部より、口縁部は強く屈曲して立ち上がり端部をややつまみ出しぎみに作るいわゆる「受け口」状口縁。	○　〃	胎土：1㎜以下の砂粒を若干含む 色調：乳赤褐色 焼成：軟	〃
30	〃	〃　15.7	○　あまり締らない頸部より、口縁部は強く屈曲して立ち上がり端部を弱く面取りしておさめるいわゆる「受け口」状口縁。	○　〃	胎土：1㎜前後の砂粒を含む 色調：明赤褐色 焼成：やや硬	〃
31	〃	〃　19.2	○　あまり締らない頸部より、口縁部は強く屈曲して開き端部を丸くおさめるいわゆる「受け口」状口縁。	○　〃	胎土：1㎜前後の砂粒を極少量含む 色調：乳褐色 焼成：軟	〃
32	〃	〃　15.3	○　あまり締らない頸部より、口縁部は強く屈曲して立ち上がり端部を強く面取りして外側に引き出すいわゆる「受け口」状口縁。	○　体部外面はハケ調整。 ○　頸部内外面および口縁部は横ナデ調整。	胎土：1㎜以下の砂粒を若干含む 色調：乳淡乳褐色	〃

番号	種類・器形	法　量(cm)	形　　態	調　　整	胎土・色調・焼成	備　考
					焼成：やや硬	
33	土師器 底部	底部径 5.8	○　底部は弱い凹み底に作られ、体部は強く外傾して開く。	○　底部外面は不調整で、内面はハケ調整。 ○　体部外面は、ヘラ磨きと思われるが、器表剝脱のため不明。	胎土：1㎜前後の砂粒を若干含む 色調：褐灰色 焼成：硬	SX−1内 (茶褐色粘質土層)
34	〃	底部径 5	○　底部は中央部が凹み底ぎみに作られ、体部は内彎ぎみに外傾して開く。	○　底部外面および体部外面は器表剝脱のため不明。 ○　底部内面は、ハケ調整。	胎土：2㎜前後の砂粒を含む 色調：濃褐色 焼成：やや軟	〃
35	〃	底部径 5.4	○　底部は弱い凹み状に作られ、体部は強く外傾して開く。	○　底部外面はナデ調整で、内面はハケ調整。 ○　体部外面は、ハケ調整後、横ナデ調整。	胎土：1㎜前後の砂粒を若干含む 色調：乳褐色 焼成：硬	〃
36	〃	底部径 4.0	○　底部は弱い凹み底に作られ、体部は外傾して開く。	○　底部内外面および体部内外面ともに器表剝脱のため不明。	胎土：1㎜以下の砂粒を極少量含む 色調：淡赤褐色 焼成：やや軟	〃
37	〃	底部径 4.8	○　〃	○　〃	胎土：1㎜以下の砂粒を極少量含む 色調：濃褐色 焼成：やや軟	〃
38	〃	底部径 5.0	○　底部は凹み底に作られ、体部は外傾して開く。	○　底部外面は指頭による調整であるが、内面は器表剝脱のため不明。	胎土：1㎜前後の砂粒を含む 色調：明赤褐色 焼成：やや硬	〃

番号	種類・器形	法　量(cm)	形　　態	調　　整	胎土・色調・焼成	備　考
39	土師器 器台	口径　17.3	○　体部は内彎ぎみに強く外傾して開き、口縁部は上方と下方に引き出す垂下口縁で端部に弱い凹線を入れる。	○　器表剝脱のため不明。	胎土：1㎜以下の砂粒を極少量含む 色調：褐赤色 焼成：硬	SX−1内(茶褐色粘質土層)
40	〃	21.4	○　体部は内彎ぎみに強く外傾して開き、口縁部は外面を面取りして下方に弱く引き出しておさめる。	○　器表剝脱のため不明。	胎土：1㎜以下の砂粒を若干含む 色調：明赤褐色 焼成：やや軟	〃
41	土師器 脚部	脚部径10.8	○　脚部は「ラッパ」状に開き、端部を丸くおさめ、3穴を有す。	○　脚部内面にはしぼり痕を残すが、内外面横ナデ調整。	胎土：1㎜前後の砂粒を若干含む 色調：明赤褐色 焼成：やや軟	〃
42	〃		○　脚部は「ラッパ」状に開き、3穴を有すると思われる。	○　〃	胎土：精良 色調：白褐色 焼成：硬	〃
43	〃	脚部径11.2	○　脚部は「ロウト」状に開き、端部を強いナデで引き出しぎみに作る。	○　脚部は、内外面横ナデ調整。	胎土：1㎜前後の砂粒を含む 色調：明赤褐色 焼成：やや軟	〃
44	〃		○　脚部は「ラッパ」状に開き、3穴を有すると思われる。	○　脚部は内外面および坏部内外面ともに器表剝脱のため不明。	胎土：2㎜以下の砂粒を含む 色調：白褐色 焼成：軟	〃
45	〃		○　〃	○　脚部は内面にしぼり痕を残し、内外面横ナデ調整。	胎土：1㎜以下の砂粒を若干含む 色調：褐灰色	〃

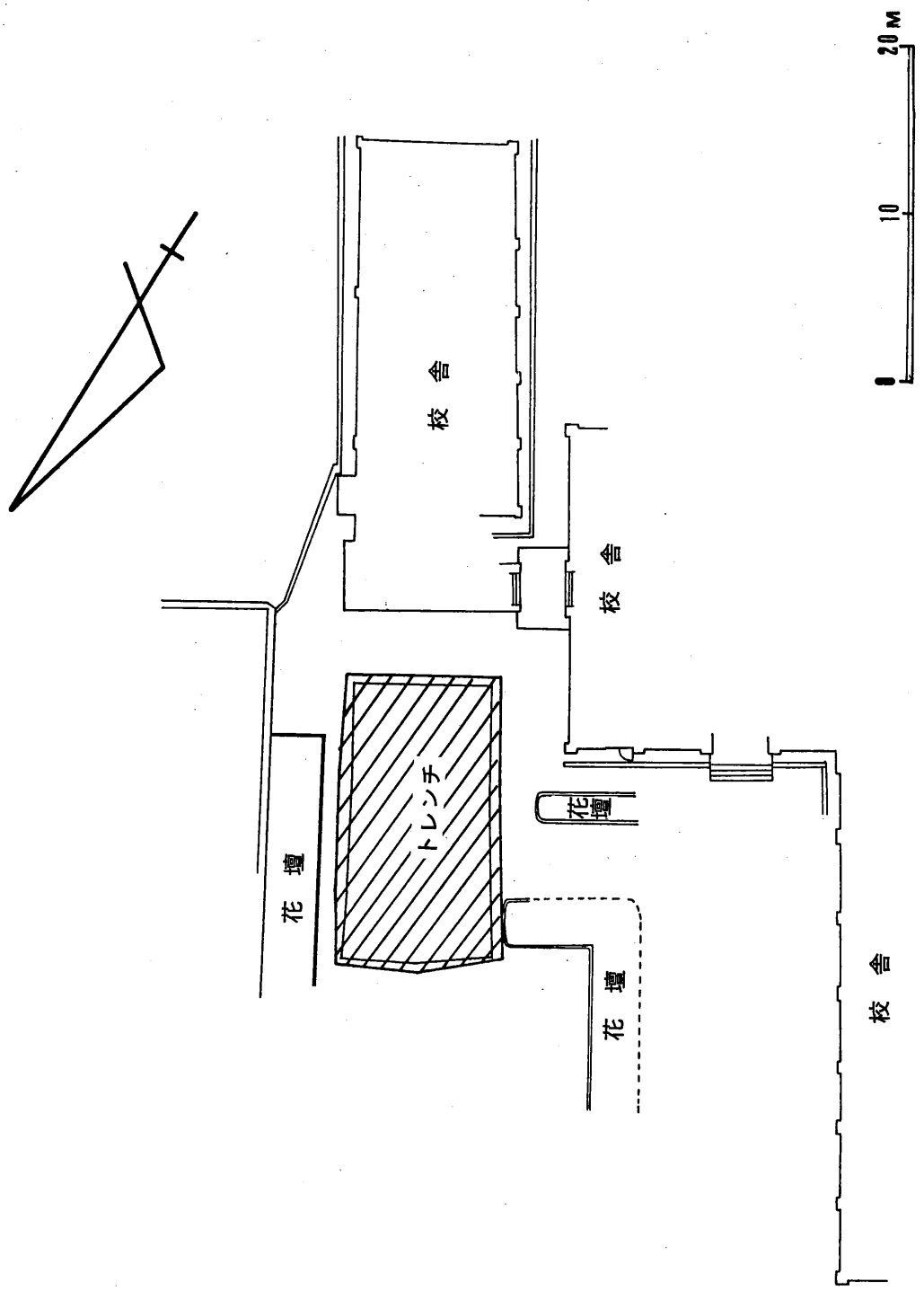
番号	種類・器形	法　量(cm)	形　　態	調　　整	胎土・色調・焼成	備　考
					焼成：硬	
46	土師器 脚部		○　脚部は「ラッパ」状に開く。	○　脚部は内外面ともに横ナデ調整。	胎土：精良 色調：淡明褐色 焼成：やや軟	SX−1内 (茶褐色 粘質土層)
47	〃	脚台径 7.0	○　脚台は「ロウト」状に開くしっかりした作りで、端部を面取りしておさめる。	○　脚台部は内外面横ナデ調整であるが、端部外面を部分的に指でおさえており不調整。	胎土：1㎜以下の砂粒を若干含む 色調：淡灰褐色 焼成：硬	〃
48	〃	脚台径 6.4	○　〃	○　脚部は内外面横ナデ調整と思われる。	胎土：1㎜以下の砂粒を若干含む 色調：淡乳赤色 焼成：やや硬	〃
49	土師器	底部径 3.6	○　底部は平底に作られ、体部は内彎ぎみに立ち上がる。 ○　底部は両側から錐状の工具で穴を穿つ。	○　調整法不明。	胎土：1㎜以下の砂粒を極少量含む 色調：明赤褐色 焼成　硬	〃
50	土師器 土堆	最大径 2.3	○　不整形の球形をなし、径5㎜の穴を穿つ。	○　手捏ねで作る。	胎土：精良 色調：淡白褐色 焼成：硬	〃
51	土師器 壷	12.7	○　よく締った頸部から口縁部は強く外傾して開き、端部は面取りして下方に弱く引き出しておさめる。	○　口縁部は器表剝脱のため調整法不明。	胎土：2㎜以下の砂粒を若干含む 色調：淡赤褐色 焼成：軟	SX−1内 (青灰色 粘質土層)
52	〃	14.5	○　〃	○　〃	胎土：2㎜以下の砂粒を若干含む	〃

番号	種類・器形	法　量(cm)	形　　態	調　　整	胎土・色調・焼成	備　考
					色調：明赤褐色 焼成：やや軟	
53	縄文土器 鉢		○　口縁部外面下に断面三角形の凸帯を張り付ける。 ○　凸帯は刻まないが、指頭により上下からつまみ刻み風に作る。	○　体部内外面は、茎状の工具によりナデて調整しており、外面は、上下方向で内面は横方向である。	胎土：2㎜以下の砂粒を含む 色調：淡灰黄色 焼成：硬	SX−1内 (青灰色 シルト層)
54	〃		○　断面三角形の凸帯を張り付けるが、刻まない。 ○　上下逆の可能性がある。	○　体部外面は、茎状の工具によりナデて調整しており、内面はナデ調整。	胎土：2㎜以下の砂粒を若干含む 色調：淡灰色 焼成：硬	〃
55	〃		○　口縁部および頸部二段に刻目凸帯文を張り付けるものと思われる。 ○　口縁部はやや外彎ぎみに立ち上がる。	○　体部外面は茎状の工具によるタテ方向のナデ調整で、頸部外面は横方向のナデ調整。 ○　頸部内面および体部内は、ヘラ状工具による横方向のナデ調整。	胎土：1㎜前後の砂粒を含む 色調：茶褐色 焼成：硬	SX−1内 (青灰色 砂利層)
56	〃		○　体部は内彎して立ち上がり、頸部に陵を作る。 ○　口縁部は外彎して開き、薄手の作りである。	○　体部外面は頸部下が横方向で、その下がタテ方向の茎状工具によるナデ調整。 ○　頸部内外面および体部内面は、ヘラ状の工具による磨き調整で平滑に仕上げてある。	胎土：1㎜以下の砂粒を含む 色調：濃茶灰色 焼成：硬	SX−1内 (青灰色 シルト層)
57	縄文土器 浅鉢		○　口縁部は内彎して立ち上がり、口縁端部を外側に引き出しておさめる。 ○　口縁端部下に3条の凹線を入れる。	○　内外面、横ナデ調整。	胎土：1㎜以下の砂粒を含む 色調：淡黄灰色 焼成：硬	SX−1内 (青灰色 粘質土層)
58	叩き石		○　最大径9.2㎝の円形の河原石で、両面に凹み痕を残す。 ○　花崗岩系の石と思われる。			包含層

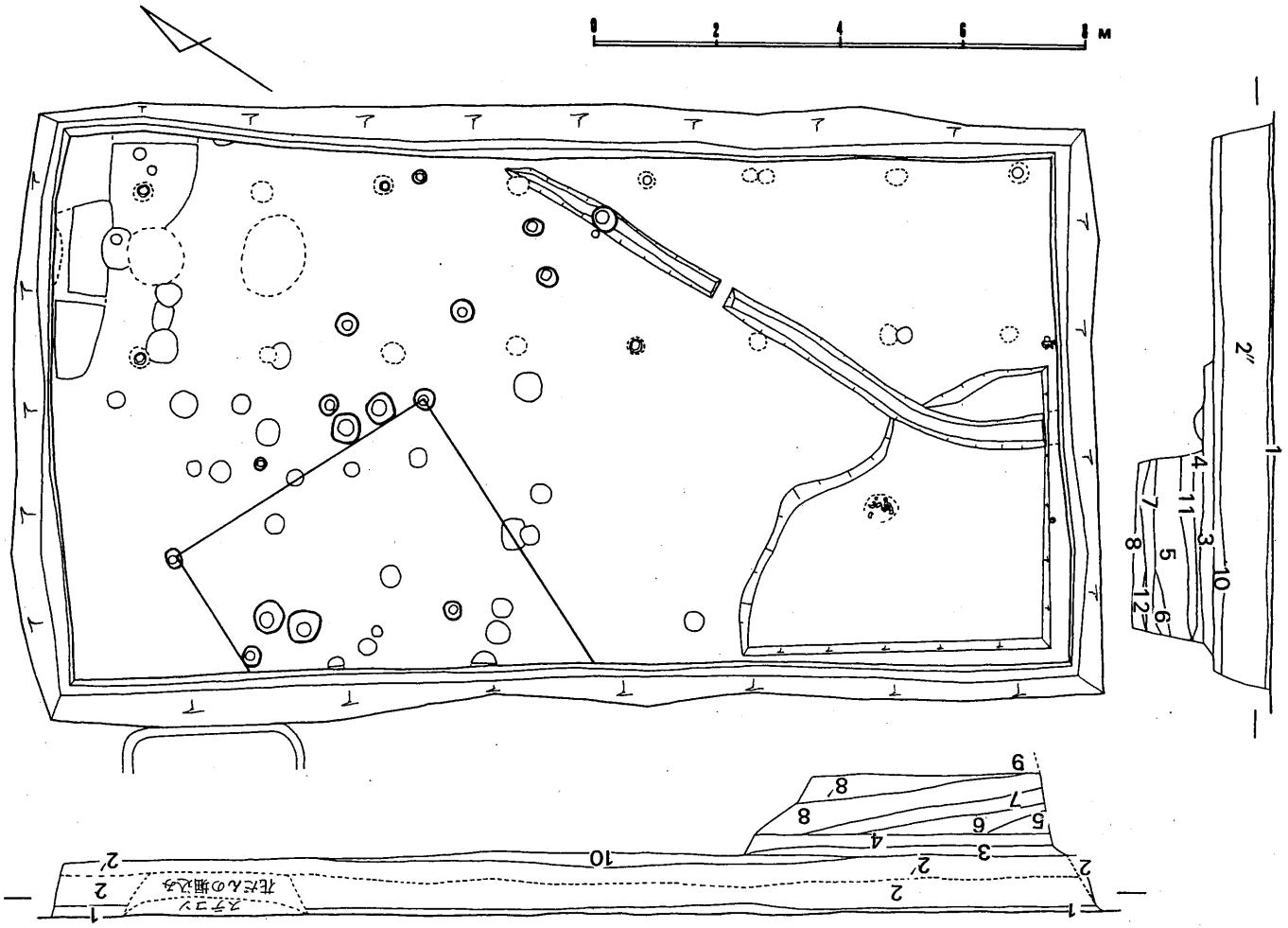


1	今回調査地（福満遺跡）	11	天王山遺跡	21	竹ケ鼻廃寺
2	品井戸遺跡	12	天王山南遺跡	22	丁田遺跡
3	七講田遺跡	13	雨壷山遺跡	23	遊行塚遺跡
4	中久保遺跡	14	雨壷山東遺跡	24	藤丸遺跡
5	下野々上遺跡	15	下沢遺跡	25	上沢尻遺跡
6	一ツヤ遺跡	16	東沼波遺跡	26	門田遺跡
7	木戸口遺跡	17	道ノ下遺跡	27	蓮台寺遺跡
8	山之脇遺跡	18	須川遺跡	28	石原遺跡
9	天王山北遺跡	19	西今遺跡	29	横地遺跡
10	山畑遺跡	20	椿塚遺跡	30	堀南遺跡

図版１　調査遺跡位置図

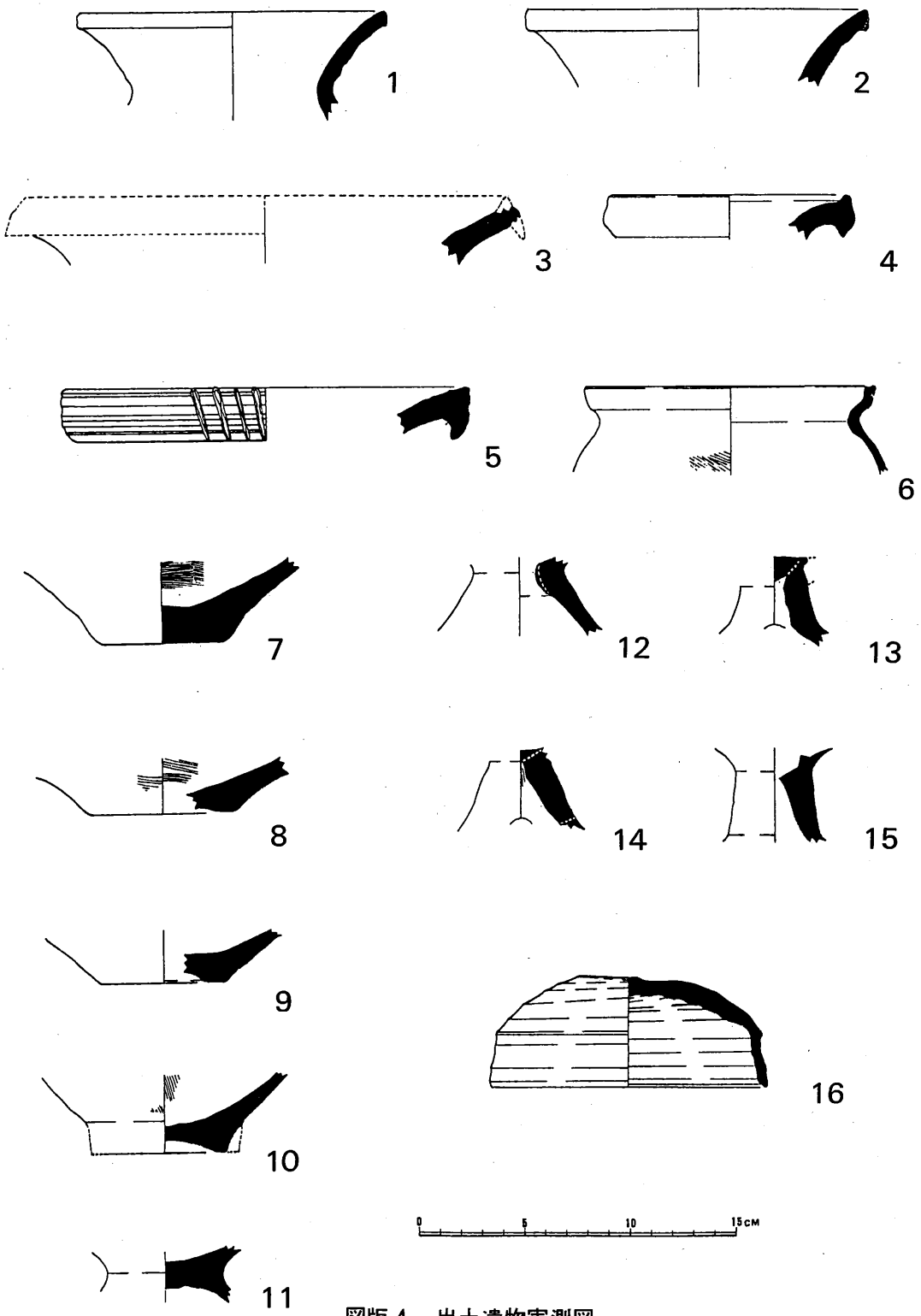


図版２　トレンチ位置図

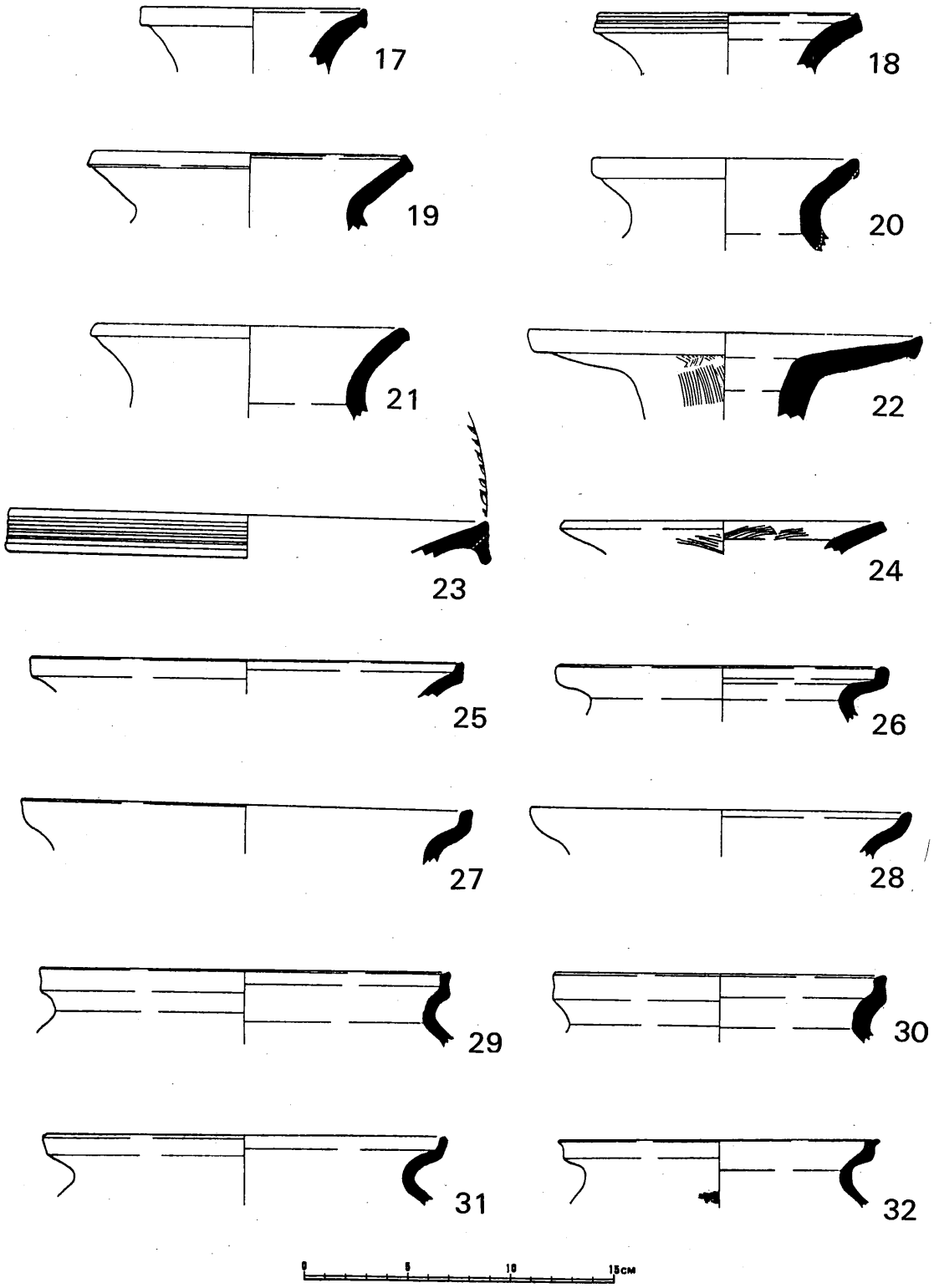


1　盛り土（砂利および山土）
2　盛り土（排材を入れた埋土）
2′　ぐり層（前の建物の基礎）
3　礫混り暗黒褐色粘質土
4　茶褐色粘質土
5　淡灰緑色粘質土
6　礫混り黒灰色粘質土
7　青灰色砂混りシルト
8　褐灰色砂礫層
8′　灰緑色砂礫層
9　砂 利 層
10　暗灰褐色粘質土
11　黒灰色粘質土
12　黒茶色スクモ
2″　コンクリート混りの埋土

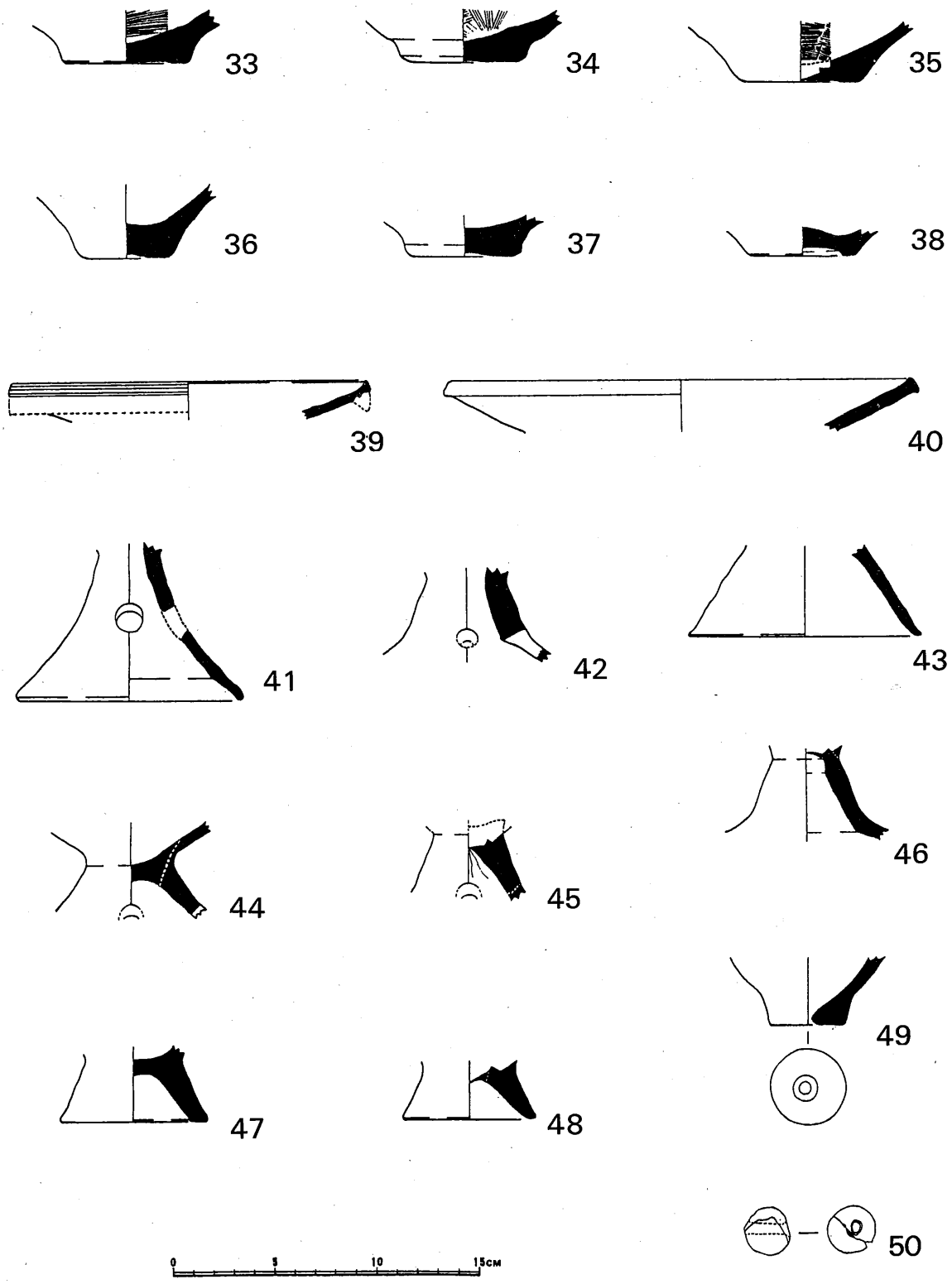
図版3　遺　構　図



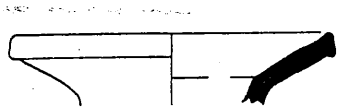
図版 4　出土遺物実測図



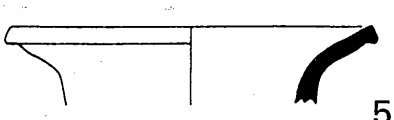
図版５　出土遺物実測図



図版 6　出土遺物実測図

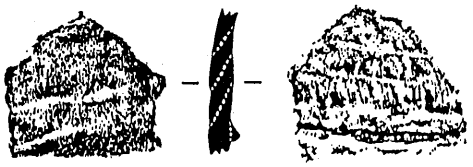


51

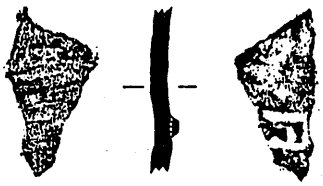


52

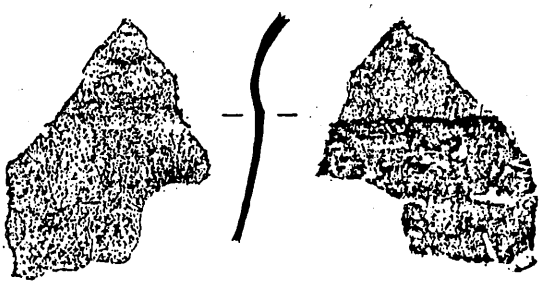
53



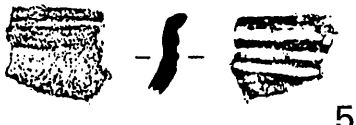
54



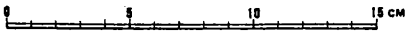
55

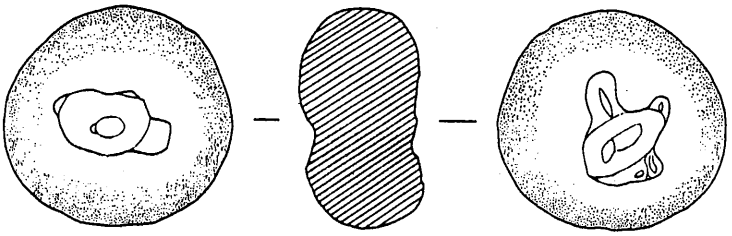


56



57

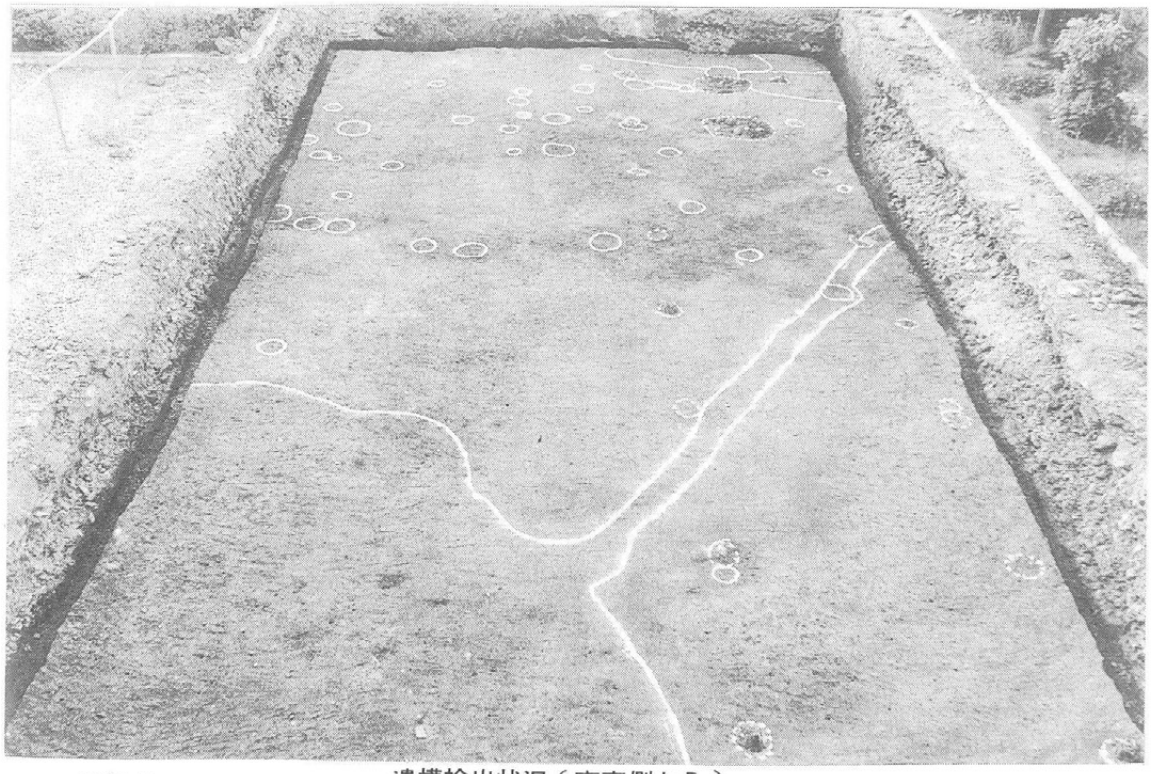




58

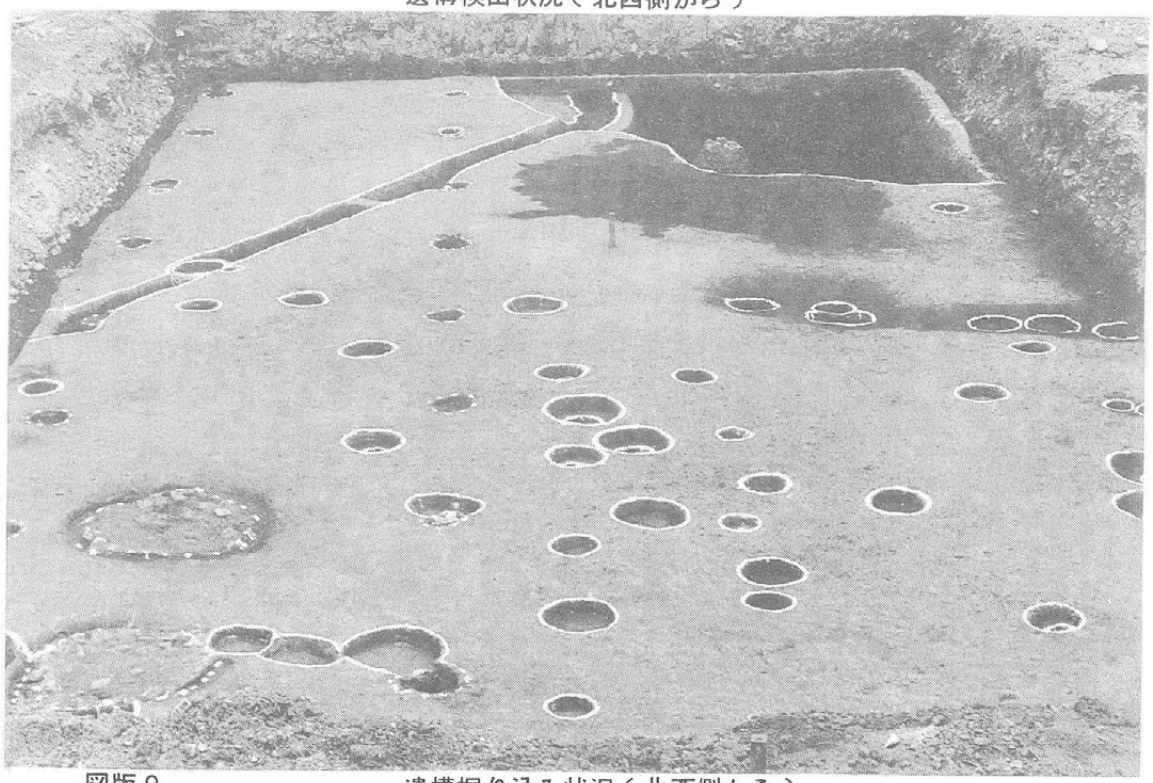
図版７　出土遺物実測図

調査風景



図版 8　　遺構検出状況（南東側から）

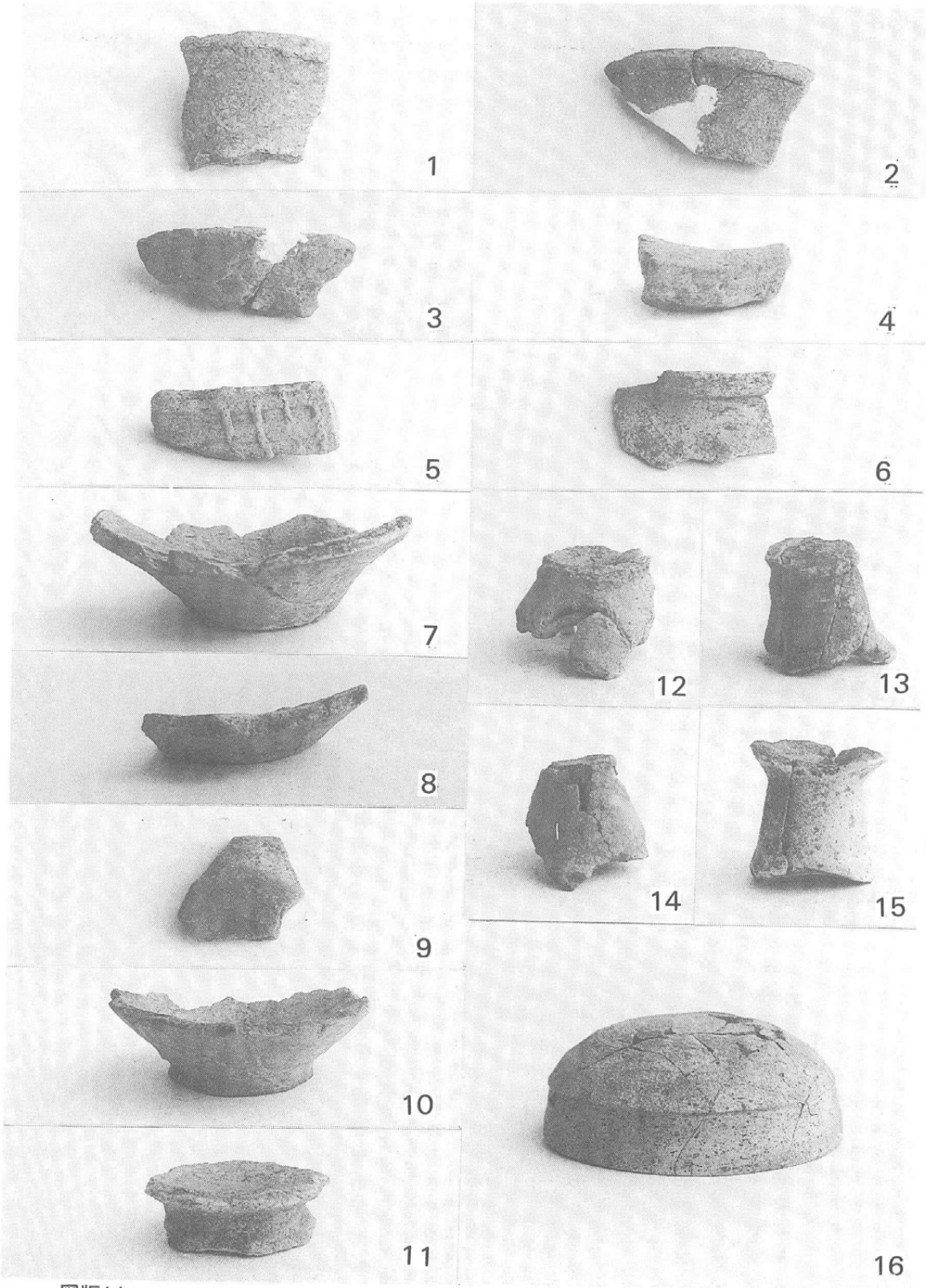
遺構検出状況（北西側から）



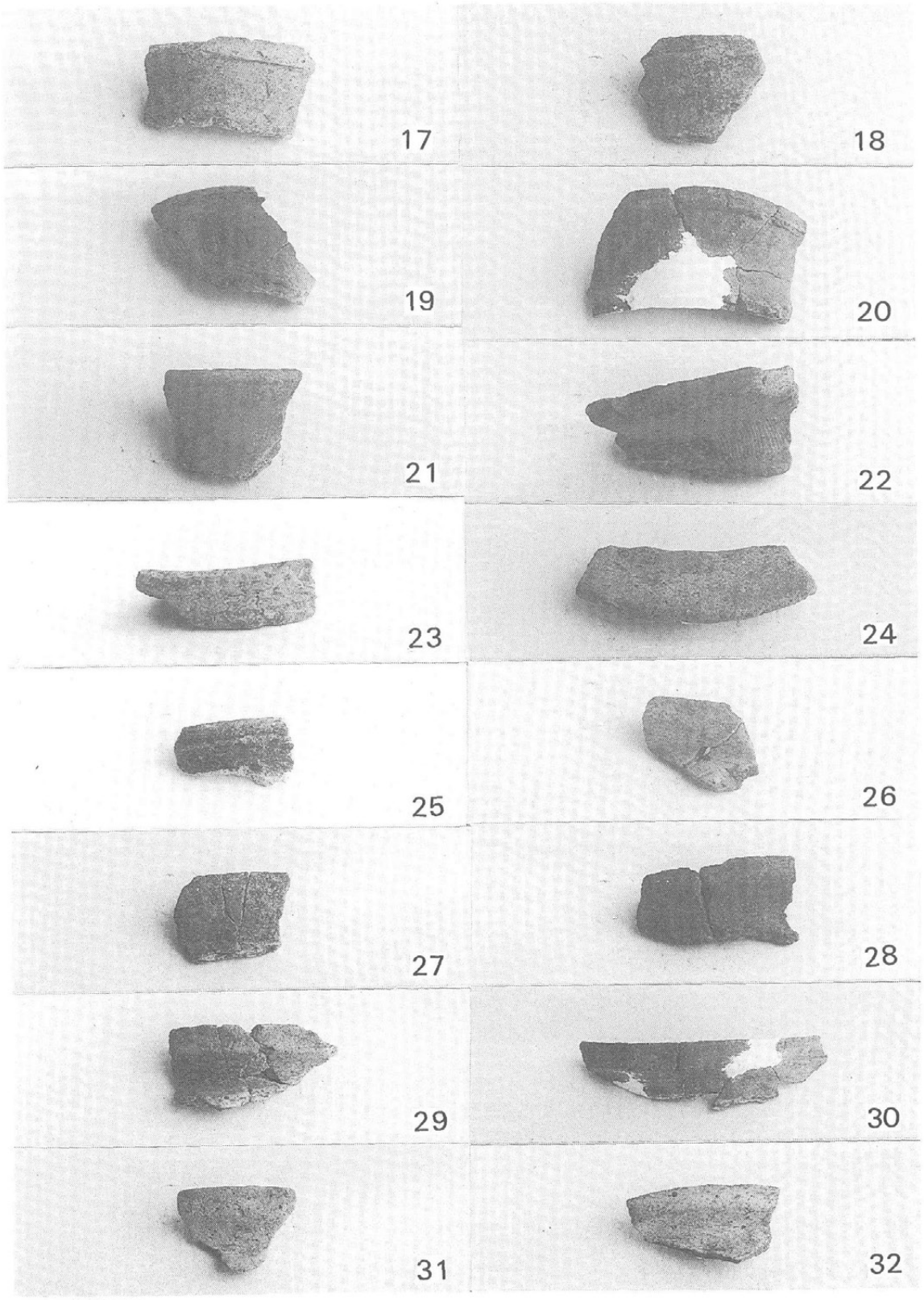
図版９　遺構掘り込み状況（北西側から）

遺構掘り込み状況（南東側から）

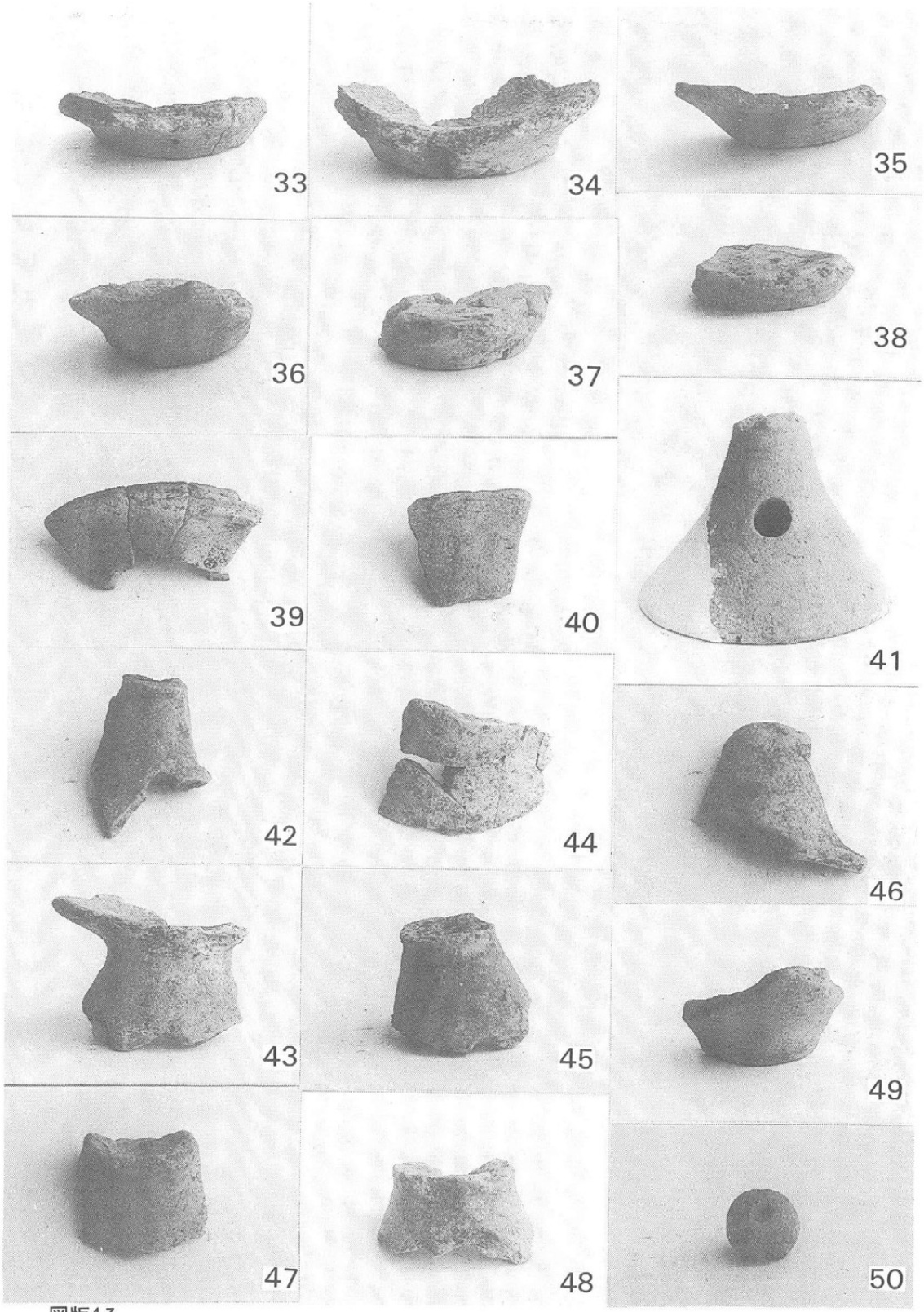
図版10　　ＳＸ－１遺物出土状況



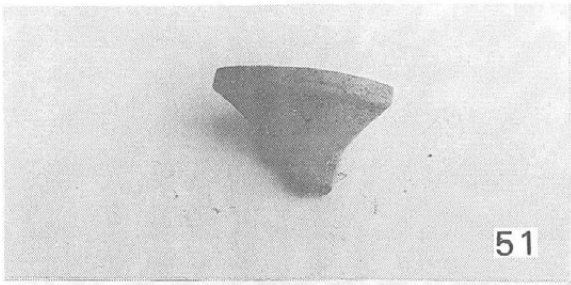
図版11

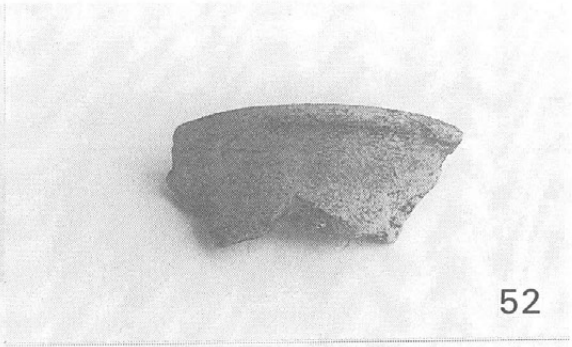


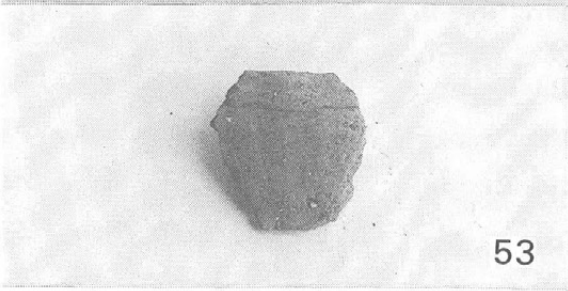
図版12

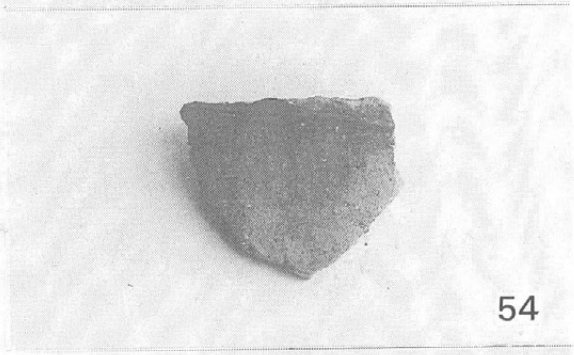


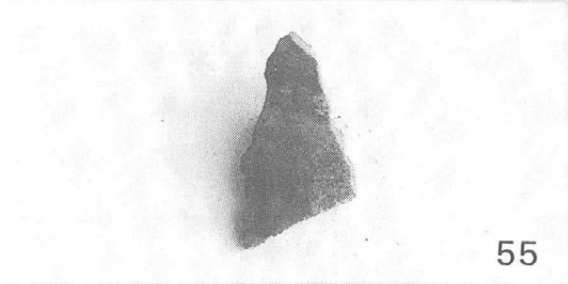
図版13

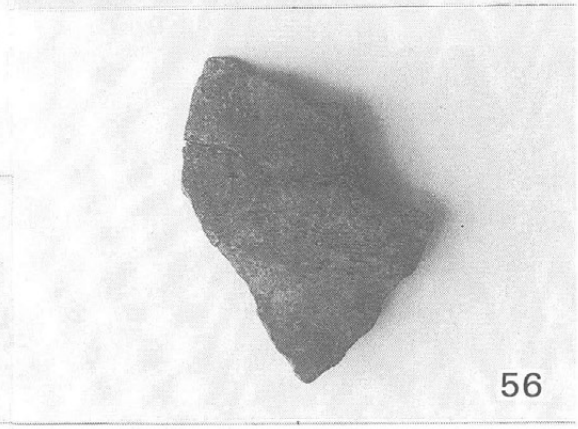


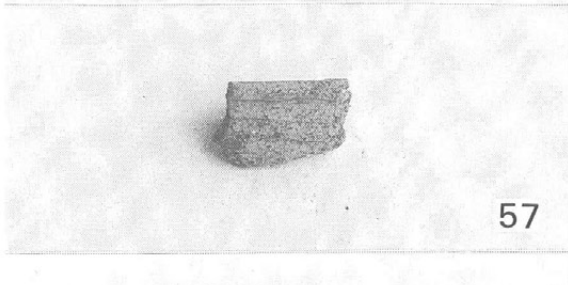












図版14

彦根市埋蔵文化財調査報告第20集

福 満 遺 跡 第 7 次 調 査

— 市立城南小学校増築工事に伴う —

平成3年3月

編 集　彦根市教育委員会

発 行　彦根市教育委員会

印 刷　㈲つくし出版印刷